

連休突入！

2年7組学級通信 第7号 1996.4.26

きのうのLHRは、つい興奮してしまっすみませんでした。元7組の人は、まあ慣れているでしょうが、はじめての人は少々びっくりしたかもしれません。きのう「震災」のことを話しているとき、最後の方でいきなり怒ったのは、単に私の話を聞いていないから怒ったのではなく、もちろん別の理由があつたことです。

ともすればああいう話は、「自分とは関係ない」あるいは「考えるのが面倒くさい」ととらえられがちです。しかし、本当に私たちと「関係ない」のでしょうか。たとえば、「長田区が燃えている最中に、救助するためでなく、『これからの都市計画』のために、被害状況を調べていた」と言われていたことを話しました。これが正しい話かどうかは知りません。しかし、毎日新聞に載っていた話ということですから、かなり真実味のある話です。さて、この話を聞いたとき、君たちはどう考えたでしょうか。

あるいはこんな話もあります。兵庫県が発表していた「避難者数」は実は避難所で配られた「弁当の数」だった、という話です。しかし、実際には「公式」の避難所以外に、無数の避難所があつたし、いまもあります。たとえば、きのうの話でも出しましたが、いまだに長田区にあるテント村もそうです。これらの場所では救難物資は配られませんでしたし、いまももちろん配られていません。しかし、これらの場所で避難している人たちは、「避難者数」の中には入っていないのです。また、「公式」発表された避難者数をはるかに上まわる避難者が実は存在していたし、いまも存在しているのです。しかし、兵庫県が「避難所」を「待機所」に強制的に名前を変えることによって、現在は「避難者はいない」ということになっているのです。この現実を、君たちはどう考えるでしょうか。

私には、これらの「人権軽視」の考え方が許せません。と同時に、私たちはいかにしてこうした「人権軽視」の考え方から脱却していくか、ということを考えなければなりません。そうでなければ、私たちは「もしも」のときに必ず「人権軽視」の行動をとってしまうからです。いや、おそらく、日常的にも気がつかず「人権軽視」の行動をとってしまうからです。

「人権を大切にする」生き方を探すきっかけは、ごく日常的な生活のあちこちに散らばっています。そのことに気づく必要があります。

○遠足について

遠足の「しおり」については、たぶん前日の5月1日に配りますが、とりあえず、

9時京都駅集合・4時京都駅解散

のつもりをしています。

だいたい感じとしては、午前中に長田区を見て、昼すぎに元町で一度解散、3時過ぎに三宮駅で再度集合という形にしようと思っています。元町から三宮の間は自由行動になります。ただし、全くの自由行動で、君たちがどこにいるのかわからん、というのもまずいので、次の2点をお願いしたいと思います。

①グループ行動を基本とする。ただし、そのグループについては、人数、メンバーともに自由とします。

②グループの責任者を決め、責任者を中心として行動プランを出してもらう。これを、プランの提出期限は4月30日中としたいな、と思っています。